

学習のユニバーサルデザインの視点を取り入れた理科授業 —小学校3学年「こん虫を調べよう」の実践をもとに—

○平澤 林太郎^A, 久保田 善彦^B

HIRASAWA Rintaro, KUBOTA Yoshihiko

新潟県小千谷市立小千谷小学校^A, 宇都宮大学教育学部^B

【キーワード】学びのユニバーサルデザイン, 小学校理科, 生物教育, 昆虫と植物

1 はじめに

平成24年の中央教育審議会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」が示された。平成24年現在で、特別な教育的支援を必要とする児童が、約6.5%の割合で通常学級に在籍している。現在、教育方法を工夫し全ての児童生徒に等しく学習の機会を提供する「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」が注目されている。桂(2010)は国語教育の視点から「授業の焦点化・視覚化・共有化」の3つの要件による授業デザインを提案している。本発表は、小学校3学年「こん虫を調べよう」で、「授業の焦点化・視覚化・共有化」をした実践を行い、その効果を検証した。

2 授業の手だて

(1) 焦点化した学習課題の提示

児童生徒が意欲をもちながら追究するためには、1時間ではっきり答えが出せる学習課題を設定する必要がある。例えば「アリの足はどこから何本生えているのか」である。このことで、どの児童生徒も問題意識をもちながら観察に取り組んでいけると考えた。

(2) 考えを視覚化するワークシートの工夫

観察後は結果や考察をワークシートに書き込むようにする。図で自分の考えをかく本学習では、罫線のないワークシートが有効であると考えた。罫線のあるノートや細かい指示が書いてあるワークシートでは混乱する児童生徒がいると考えた。これを活用することで児童生徒が考えを視覚化できると考えた。

(3) 共有化のためのマグネットシートの活用

自分なりの考えをもった児童生徒でも、いきなり教室全体での共有となると自分の考えを表出できない児童生徒がいる。そこで小グループでの話し合いを行ってから教室全体での話し合いを行うようにする。小グループでの思考ツールとしてマグネットシートを活用する。小グループで考えを出し合い、意見をまとめる。このことにより、自分の考えを仲間と共有でき、さらに黒板に貼ることで全体での共有化も図られると考えた。

3 実践の方法

(1) 実践の対象

実践の対象は、0市立0小学校の3学年1

クラス(30人)である。実施時期は平成26年9月である。

(2) 指導計画(全5時間)

1次 生き物の様子を調べよう(2時間)

2次 昆虫のからだを調べよう(3時間)

2次の1時間目の後に本研究に関する質問紙調査を行った。質問紙は4件法で回答を求めた。「かなりそう思う」を肯定的回答「ややそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を否定的回答としてまとめ、合計人数を換算し、各項目について直接確率計算(母比率不等, 片側検定)を行った。

4 結果・考察

(1) 学習課題の焦点化について

問題意識をもってレンズ付き昆虫観察器で観察し、学習課題を追究していく児童の姿が見られた。質問「アリの足はどこから何本出ているか」についてしっかりと調べることができたかについては肯定的に有意($p=.000$)、質問「アリの体のつくりがわかったか」でも肯定的に有意($p=.000$)であった。

(2) ワークシートでの考えの視覚化について

ワークシートにどの児童も図で書き込んでいく姿が見られた。質問「観察してわかったことを、ワークシートに書き込むことができたか」は肯定的に有意($p=.000$)であった。

(3) マグネットシートでの共有化について

マグネットシートに書き込むことにより、小グループでの話し合いが活発になった。質問「マグネットシートを使った話し合いで、自分の考えを話すことができたか」は肯定的に5%水準で有意($p=.039$)であった。しかし、否定的な回答が他の質問項目より多かった。

5 おわりに

マグネットシートを活用した話し合いで自分の考えを表出できない児童が見られた。今後は、自分の考えを表出し共有しやすい学習ツールの開発に取り組んでいきたい。また、学力との関係を明らかにしていきたい。

〔謝辞〕

本研究は、JSPS 科研費 26590228 の助成を受けたものである。

参考文献

桂聖(2010):『授業のユニバーサルデザイン, Vol.1』東洋館出版社